宮城県立がんセンター広報誌

せりなべ秋

Miyagi Cancer Center
2022.10　Vol.2

薬剤師外来を知る

おしえてせり爺！

宮人（みやびと）ハ語（かた）ル

また一歩、まだ名前のない道をゆく

薬剤師　土屋　雅美

宮人（みやびと）ハ語（かた）ル

毎回がんセンターのスタッフに焦点を当てて、その人物に自身の思いを語ってもらう。
今回は、薬剤師の土屋雅美さんに語ってもらいます。

薬剤師 土屋（つちや） 雅美（まさみ）

プロフィール

栃木県宇都宮市生まれ、宮城県の沿岸部で育つ。
宮城野高等学校、東北大学薬学部を卒業後、東北大学病院薬剤部に入職。病院薬剤師としての研鑽を積み、2013 年から宮城県立がんセンターで勤務。
2018 年にテキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンターへ短期留学。博士（薬学）。

学生時代に熱中していたこと

高校生の時は3年間吹奏楽部で、クラリネットの練習に明け暮れていました。バンド全体で演奏するのはもちろん吹奏楽の醍醐味（だいごみ）なのですが、少人数で演奏するアンサンブル編成が特に好きでした。アンサンブルは、大編成以上にメンバーそれぞれが自分の役割（主旋律なのか、対旋律なのか、ハーモニーなのか…）を理解して演奏することが求められるため、非常に頭を使います。自分がリードするところは前に出る、そうでないときは主旋律を引き立てる、この「譜読み」の力が、今の仕事にも生きているような気がします。大学時代はひたすらアルバイト（塾講師、家庭教師）と飲み会に明け暮れていました。当時の友人たちとは今も交流がありますが、製薬や食品企業の研究職に就いたり、株のアナリストになったり、行政機関で働いていたりと非常に多様な人々に囲まれていました。研究室に配属になった大学3年生の終わりからは、有機合成化学の魅力にどっぷりと浸かり、毎日夜中まで実験をしていました。

がん専門薬剤師になろうと思ったきっかけは

がん専門薬剤師は、主に病院に勤務する薬剤師が取得できる資格です。元々、私は人見知りで対人コミュニケーションが得意ではなかったので、途中までは病院ではなく研究職に進むつもりでいました。

そんな私が病院薬剤師として患者さんに日々接しているとは、20年前の私が知ったら驚くでしょう。がん専門薬剤師を目指した、というよりも、ならなければ、と思ったのは東日本大震災の時です。あまりの惨状を前に、「もうがん専門薬剤師を目指しても意味がないのでは…」と燃え尽きかけていました。当時は前の職場（大学病院）で腫瘍内科病棟を担当していたのですが、ある日、沿岸部から転院してきた患者さんがぽつりと「あんなことになっても、体調をよくして海の近くの家に帰りたいんだよね…」とおっしゃられていた時に、災害があっても何があっても、自分はがん患者さんのサポートをしよう、それができる薬剤師になろう、と思いました。このことが迷っていた私を強く後押ししたと思っています。

アメリカとの違い

縁があり、2018年に1か月間、米国テキサス州MDアンダーソンがんセンターに短期留学させていただきました。米国No.1のがんセンター（U.S. News & World Report Best Hospitals in Cancer 2022）ということで、期待に胸を膨らませて空港に降り立ったことを今でも覚えています。薬剤師の仕事に関して、日本の病院薬剤師は調剤から注射の準備、服薬指導や処方提案まで一人で何でもこなすことが多いのですが、米国では、①主に調剤室で調剤や薬の準備をする「ファーマシーテクニシャン」と呼ばれる薬剤師の資格を持たないスタッフ、②テクニシャンが準備した薬を鑑査する「スタッフ薬剤師」、③入院病棟や外来で患者指導や医師への処方提案、薬物療法の計画を立てるなどのより専門性の高い仕事を行う「臨床薬剤師」がおり、仕事が細分化されています。私は③の臨床薬剤師について研修したのですが、仕事内容が高度な分、責任は重大です。日々知識をアップデートし、仕事に向かう姿勢はとても刺激になりました。

MD アンダーソンがんセンター臨床薬剤師の Neelam K Patel さんとの 1 枚

いま取り組んでいること

支持療法、いわゆる副作用対策を充実させるために、数年前に「支持療法チーム」を立ち上げました（現在は委員会）。吐き気や嘔吐（おうと）などの副作用は吐き気止めなどの薬の進歩によって状況が改善しつつありますが、脱毛や色素沈着などの外見の変化や、爪の割れ、欠けなどに対するサポートはこれまで二の次となっていました。「病気が治れば髪の毛なんて」という言葉に傷ついた患者さんもいたのではないかと思います。現在、看護師さんたちと協力して、治療中の患者さんの外見の変化や皮膚の症状の相談に乗ったりしています。あとは月に一度、「ソシオエステティシャン」と呼ばれる専門家をお呼びして、ウィッグ選びやメイク、マッサージなどの施術を通して、患者さんの生活の質を上げるためのサポートの場所である「アピアランスケア外来」を２０２２年より立ち上げました。見た目のケアもそうですが、それ以外の副作用対策についても、常に積極的に取り組んでいます。

今後のビジョン　たどり着きたい場所

がん治療というのは個人ではなく、多職種によるチームで取り組んでいく時代になりました。患者さんにとってベストな治療をお届けし、副作用などに悩まされることなく治療が進むように、医師、看護師、栄養士…多職種でチームワークよく進めていくことが求められます。チームとは、みんなが同じ目標に向かって進む集団のことを指すそうです。患者さんによい治療と治療環境を、ということを、今以上に推し進めていければと思っています。

また、気が付けば中堅と呼ばれる年齢・キャリアになり、自分のことだけでなく後輩薬剤師をどう育てるか、ということを最近はよく考えています。仮に宮城県でがんになったとしても、がんセンターで治療を受ければ、薬や副作用のことは薬剤師さんがしっかり管理し、相談に乗ったりしてくれるから安心、と思っていただけるように後進育成を進めていくとともに、自分自身も日々勉強の心を忘れずにいたいと思います。

宮人を知る

薬剤師
角田 聡 さん

普段は「がん専門薬剤師」「がん指導薬剤師」として、患者さんに冷静に薬のお話をしている土屋さんですが、薬剤部では朗らかな笑顔で同僚と会話をしている普通のお姉さんです。

業務については、薬に関することだけでなく、電子カルテ等のシステムにも通じており、同僚や研修生、医師や看護師などの多職種からの相談に応じる「頼れる姉さん」として、日々活躍しています。

看護師
門馬 仁美 さん

院内外、国内外！？で活躍されているがん専門薬剤師さんです。

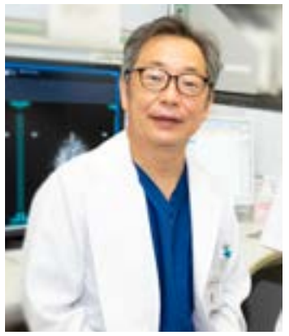
いつも丁寧・迅速・柔軟な対応をしてくださり、患者さん・ご家族から慕われ、医療スタッフからも信望が厚いです。

困ったことを土屋さんに相談すると解決の糸口をみつけてくださり、ともに仕事ができることが楽しく、誇りに思います。

毎朝行われている外来化学療法室でのミーティングでは、患者さんの情報を共有し、細やかなケアに繋げることができています。

ドクターは伝えたい「がん」のこと

ブレスト・アウエアネスのすすめ



乳腺外科　大貫 幸二

日本人の乳がん罹患（りかんりつ）率は増加傾向で、最新の統計では女性の９人に１人は生涯、乳がんに罹患するとされています。それにもかかわらず、肺がんの禁煙、子宮頸がんのワクチン、胃がんのピロリ菌除菌などの効果的な予防方法はありません。しかし、乳がんの治療は進歩しており、自覚症状があってもすぐに治療を開始すれば90～95％程度の人が治癒し、自覚症状がない時期に検診で発見されれば、さらに負担の軽い治療でほぼ全例治癒します。一方、自覚症状があるにも関わらず、痛くない、大したことない、怖いからと半年以上様子を見た人は、負担の大きい抗がん剤や拡大手術が必要になるにも関わらず、再発しやすくなります。

近年、乳がん罹患の際の不利益を低減させる方策として、ブレスト・アウエアネスという概念が日本でも広まり始めました。ブレストは「乳房」、アウエアネスは「気付き、意識」や「啓発」という意味があります。(1)着替えや入浴の際に普段から自分の乳房の状態をチェックして、(2)しこり、乳房の変形や乳頭分泌物などの乳がんの兆候を確認しておき、(3)いつもと違う変化に気づいたらすぐに医療機関を受診し、(4)いつもと変わりなければ（40歳を過ぎたら）定期的に乳がん検診を受診する、といった生活習慣を身につけることが大切です。特に、乳がん罹患率が高くなり始める30歳代後半以降の女性は、少しだけ自分の乳房の健康状態にも気を配ってみてください。

※ブレスト・アウエアネス＝
乳房を意識する生活習慣

腫瘍内科の道

腫瘍内科　村川 康子

腫瘍内科の主な守備範囲は手術不能で治癒を望めない癌患者さんへの抗がん剤治療です。そして目標は生存期間延長と出来るだけ生活の質（ＱＯＬ）を保つこと。生存期間は治療開始から永眠までの期間で評価ができます。ではＱＯＬはどうでしょうか。

現在、ＱＯＬ評価は患者さんへの質問表で行います。最も一般的なEORTC QOL-C30では、“この１週間”の想起で30の質問（例えば“吐きましたか？”）に“全くない／少しある／多い／とても多い”で答えるのです。この方法では生存期間全体のＱＯＬを評価することはできません。長期入院や頻回の外来受診はＱＯＬに悪い影響を与えることが報告されています。そこで食道癌・胃癌・大腸癌・膵臓癌患者さんに関して、全生存期間に加えて総入院期間・総外来受診回数、また全生存期間から総入院期間と総外来受診回数を減じた期間（病院との関わりのない期間としてホスピタルフリーサバイバル：ＨＦＳと名付けました）について検討しました。全生存期間から得られた生存期間中央値は食道癌・胃癌・大腸癌・膵臓癌で各々16.6カ月・13.8カ月・25.1カ月・10カ月です。どの腫瘍でも全生存期間と総入院期間には明らかな相関はありません。一方全生存期間と総外来受診回数には強い相関があります。全生存期間とＨＦＳには非常に強い相関があります。簡単に言うと、全生存期間の中で入院や外来受診が必要な期間は食道癌・胃癌・大腸癌・膵臓癌で各々９％、11％、９％、15％です。

これはＱＯＬの一部を示すものでしかありません。ＱＯＬを客観的に評価するよりよい指標が必要なのだと思います。

おしえて せり爺！ 薬剤師 外来を知る ～後編～

当院では、薬剤師が外来患者さんと直接お話しする場が２つほどあります。ひとつは、主に手術を予定されている患者さん向けの「入院前薬剤師外来」、もうひとつは、通院で抗がん剤治療を受ける患者さん向けの「がん薬剤師外来」です。本号では、ふたつめの「がん薬剤師外来」についてご紹介します。

患者さんの安全を守る がん薬剤師外来のご紹介

これまでの抗がん剤治療は、入院して治療を受けることが一般的でしたが、治療法や副作用対策の進歩により、通院で治療を受ける方が増えています。

抗がん剤には様々な種類があり、それぞれ異なるメカニズムで効果を発揮します。また、起こりうる副作用も薬によって異なります。

そこで、がん薬剤師外来では、外来で抗がん剤治療を受ける患者さんに対し、使用する薬、治療スケジュール、起こりうる副作用などを薬剤師が説明しています。治療に使用できる抗がん剤の選択肢が複数ある場合は、患者さんにそれぞれの薬の特徴を説明し、患者さん自身がよりよい治療法を選択することを支援しています。また、治療期間中は、患者さんとの面談や検査値の確認などによるフォローアップを行います。患者さんに副作用の症状がみられた場合は、症状に応じて副作用対策の薬などを医師に提案しています。

がん薬剤師外来では、専門的な知識と経験を持った「がん専門薬剤師」が各診療科の医師や看護師と連携して、外来で抗がん剤治療を受ける患者さんを支援しています。薬のことで困ったことがあれば、お気軽にご相談ください。

①薬剤師によるお薬の説明

外来で抗がん剤治療を受ける患者さんに対し、使用する薬、治療スケジュール、起こりうる副作用などを説明します。

②治療法の選択支援

患者さんにそれぞれの薬の特徴を説明し、患者さん自身がよりよい治療法を選択することを支援しています。

③患者さんのフォローアップ

治療期間中は、患者さんとの面談や検査値の確認などによるフォローアップを行います。

④副作用対策の薬を提案

患者さんに副作用の症状がみられた場合は、症状に応じて副作用対策の薬などを医師に提案します。

宮友（みやとも）ト語（かた）ル

あいのもりクリニック

【クリニック紹介】

当院は平成19年11月に名取市の愛の杜（もり）に開業しました。現在、仙台市医師会長である安藤健二郎先生に支援を頂いての開業でした。開業当初、愛の杜地区はまだまだ新しい住宅地で若い世代の方が多く、最初は小児科の受診がとても多かったです。小児の患者さんも、風邪などの軽症だけでなく肺炎など重症で入院が必要な患者さんも多くとても苦労した記憶があります。私は元々消化器内科が専門なのですが開業当初は大人も診てもらえますか？など聞かれ、当惑した記憶があります（笑）。その後、徐々に大人の方の受診も多くなり、高血圧等一般的な疾患の診療も徐々に増えてきました。愛島地区や名取市民の方にも徐々に受け入れて頂けたのかと思っております。現在、診察の待ち時間を少しでも短くするために毎日2人体制で診療しています。私以外に合計5名の先生が日替わりで診察を行っています。その先生方の協力にて、甲状腺・乳腺・下肢静脈瘤（りゅう）などの血管などより広い領域に対する診療が可能な体制をとっています。

当院は、1年間で名取市の健診の200件から300件、一般健診100件から200件、腹部エコー600件から700件、甲状腺エコー500件から600件、心エコー10件から20件、インフルエンザ予防接種1300件から1400件、その他の予防接種300件から400件、上部消化管内視鏡検査約400件、下部消化管内視鏡検査約300件、開業以来約15年で胃・大腸のポリペクトミーは約1300件、ここ1年では約150件を行っております。その他、睡眠時無呼吸症候群の方のCPAPの管理を20名行っております。又、通院が困難となった患者さんは訪問診療を行っております。現在、10名の訪問をしています。特別養護老人ホームの嘱託医も行っていて、長期入所者90名の健康管理や施設での看取りも行っています。

院長　千田（ちだ）元（げん）

岩手県立一関第一高等学校、聖マリアンナ医科大学卒業し、虎の門病院内科研修医となる。その後、竹田総合病院、国保藤沢町民病院、総合南東北病院消化器科に勤務し平成19年11月にあいのもりクリニックを開院する。総合内科専門医、消化器内視鏡学会専門医取得。

【がんセンターに期待すること】

あいのもりクリニック開業前は、総合南東北病院の消化器内科に務めていました。消化管が専門でしたが、1人科長でしたのですべての領域をカバーしなければならなく困ったときにはがんセンターの先生方、特に消化器内科の先生方には大変お世話になりました。

現在は、院内で出来る検査が限られており、院内の検査で結論が出ない時や出来ない検査などはがんセンターに紹介して更なる精査を行って頂いております。がん患者さんやがん疑いの患者さんの受け入れはもちろん、それ以外の多くの症状に対する精査に関しても快く受け入れて頂けるので大変有難いです。医療連携室の方々の対応もとても丁寧で当院のスタッフも大変満足しております。又、紹介患者さんの受診報告や精査後の結果報告、手術施行時の詳細や治療経過、病理診断結果なども順次連絡を頂き安心して紹介させて頂いております。また、残念ながら緩和ケア病棟で看取る事になった患者さんもどのような経過だったのかも詳細にご報告頂いております。

現在、日赤との統合問題がありとても大変な時期かと存じます。今後、合併することになっても、そうでなくとも今まで通りに気軽に紹介出来る関係を続けて頂ける事を期待しております。

最後に、がんを患うのは患者さんだけではなく医師も例外ではありません。私も、近いうちにお世話になるかもしれませんので、その際はどうぞ宜しくお願い致します（笑）。

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
09:00 ～ 12:00	○	○	○	○	○	○	／
14:30 ～ 18:00	○	○	／	○	○	／	／

基本情報

【　休　診　日　】日曜日・祝日 / 他夏期・年末年始休診

【診療受付時間】9:00 ～ 12:00 / 14:30 ～ 18:00

【 電 話 番 号 】022-784-1550

【　　住　　所　　】〒 981-1230　宮城県名取市愛の杜 1 丁目 2-1

【　診　療　科　】内科、消化器科、小児科、外科外科

公式 HP

知ってる？ 専門・認定看護師のオハナシ

詳しく知りたい方は
当センター HP を
ご覧ください。

不安や困りごとを支援する看護のプロ

専門・認定看護師は、がん治療中の患者さん・ご家族の方が不安や困りごとなどに対し解決の糸口を見つけられるようサポートし、安心して自分らしく生活できるよう支援を行っています。

専門・専門看護師とは各看護分野のプロフェッショナルであることを日本看護協会が認定している資格です。当センターには10分野14名の専門・認定看護師が在籍しています。

専門・認定看護師の役割として、患者さんやご家族のケア、院内看護師の教育や指導、他の医療関係者との連携や公開講座などを通して地域の看護全体のレベルアップを図っています。

がん看護専門看護師：熊谷 香織

患者さんの力を引き出す看護外来

全ての分野ではありませんが、専門・認定看護師による看護外来も開設しております。

看護外来は、「どんな治療を選択したらいいのか」「痛みなどの症状で困っている」「つらい気持ちを聞いてほしい」 などに対応します。

最近、看護外来でお会いした方は、痛みなどのつらい症状や不安などから、治療に向かう気力を無くされていました。患者さんに合った鎮痛剤の使い方や生活の工夫などを話し合ったことで、体や心のつらさが和らぎ、現在は治療に前向きに取り組まれています。

相談を希望の方は、各診療科医師や看護師にお声がけください。

次号は専門・認定看護師の「院内での活動」についてご紹介します。

専門看護師		看護外来
がん看護	2名	●
感染症看護	1名	
認定看護師		**看護外来**
皮膚・排泄ケア	2名	
緩和ケア	2名	●
がん化学療法看護	2名	●
がん性疼痛看護	1名	●
感染管理	1名	
乳がん看護	2名	●
摂食・嚥下障害看護	1名	
がん放射線療法看護	1名	●

がん情報ラジオのお知らせ

当センターでは、がんセンターのスタッフががんに関する話題を紹介していくラジオ番組「がん情報ラジオ」をエフエムなとりにて放送しています。

放送時間は、毎週金曜日夕方5時30分から5時44分、翌日土曜日の午前9時16分から9時29分に再放送も行っております。また、がん情報ラジオはYouTubeにて過去放送分もすべてご視聴いただけます。がん情報ラジオでご検索ください。

なとらじ NATORI COMMUNITY fm80.1MHz www.natori801.jp

アクセスマップ

みやがん広報室からのお知らせ

各種SNSで情報発信中です。
ぜひご登録ください。

Youtube
みやがん広報室

Twitter：@miyagan_koho

Facebook：
@miyagan.koho

せりなべ2号　編集後記

せりなべ2号は、がん治療に欠くことのできないがん薬物療法を中心に関連部署の特集を組んだ。宮人の土屋雅美さんは薬剤部の中心を担うクールビューティ、外来化学療法・薬剤師外来・支持療法委員会など様々な現場で活躍する、我ががんセンター精鋭部隊の一人である。彼女の真摯な仕事ぶりのルーツが垣間見えるエピソードを知ることができた。

がんは患者さんおよびその家族の人生を一変させてしまう大きな出来事である。どんな治療もがんになる前の状態に戻すことは難しいが、がんを治し新しい人生に向かって行けるよう、もしくはがんを抱えながらでもより良い時間を過ごしていけるよう、持てる知識と技術でサポートすることが我々医療者の役割の一つであろう。その様々なツールを今後も紹介していきたい。

人生の一変といえば、新型コロナウイルス感染症も世界中の人の健康・人生を変えてしまった疾病であり、現在もまだ収束の気配がない。今夏も第7波の真っただ中、がんセンターにも感染の波が押し寄せてきた。患者さんやスタッフ・その家族への感染が増える中、診療にも支障がでてしまった。今号が発刊される初秋には落ち着いた診療体制に戻っていることを願うばかりである。

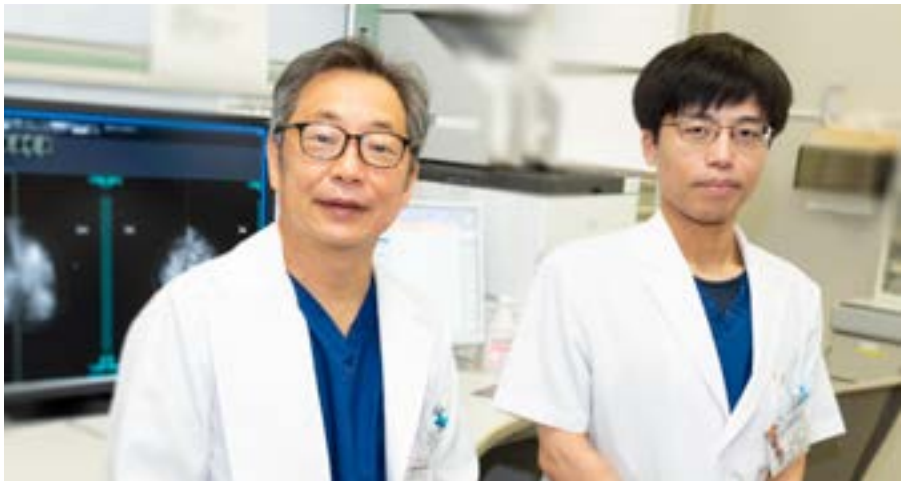
文　海法　道子

○せりなべの料理人
編集委員長：海法道子　　副委員長：猪岡京子、小山洋
編集委員：鎌田真弓、渡邉香奈、茂呂浩史、佐藤美和、臺野圭子、吉田久美、齋藤美香、相原佑季子、石井景、鈴木柾孝
写真・構成：鈴木柾孝

広報カメラが切り取る
がんセンターの日常

みやふぉと

撮影　広報担当　鈴木



宮城県立がんセンター広報誌
せりなべ　秋号　2022 年 10 月 1 日発行　vol.2

みやがん広報室　検索

本誌はホームページからもご覧いただけます。

地方独立行政法人宮城県立病院機構
宮城県立がんセンター

〒 981 - 1224 宮城県名取市愛島塩手字野田山４７の１
https://www.miyagi-pho.jp/mcc/
【広報誌に関するお問合せ】TEL　022-384-3151（代）